



2019年3月期 第3四半期決算 決算短信補足資料

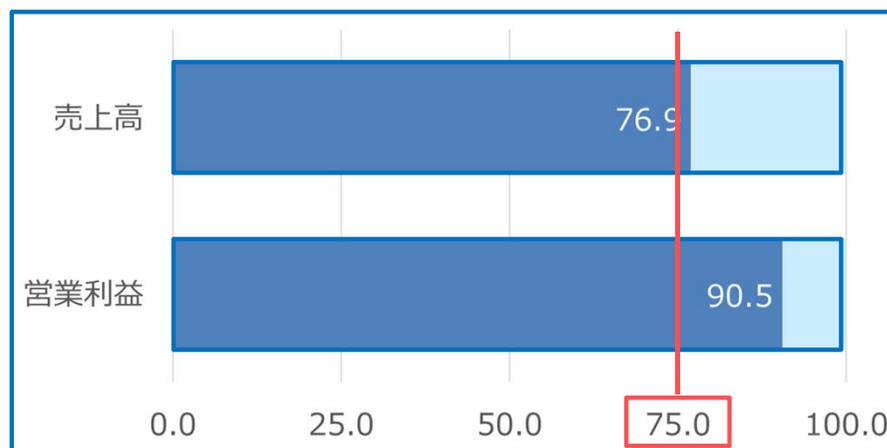
2019年2月5日
日本水産株式会社

◆食品事業を中心に大幅増収。営業利益は南米鮭鱒養殖事業の昨年の稚魚斃死による影響が残るも、北米・欧州事業が伸長し、年間計画に対し順調に推移。なお純利益の減少は、前年に投資有価証券売却益が含まれていることによる。

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	対前年同期比増減		2019年3月期 年間計画	
		(億円)	(%)	(億円)	進捗率 (%)
売上高	5,432	311	106.1	7,065	76.9
営業利益	198	▲5	97.5	220	90.5
経常利益	228	16	107.9	235	97.1
四半期純利益	152	▲11	93.3	160	95.5

年間計画
進捗

(単位：%)



◆水産・食品他全事業増収。営業利益は水産事業が減益。

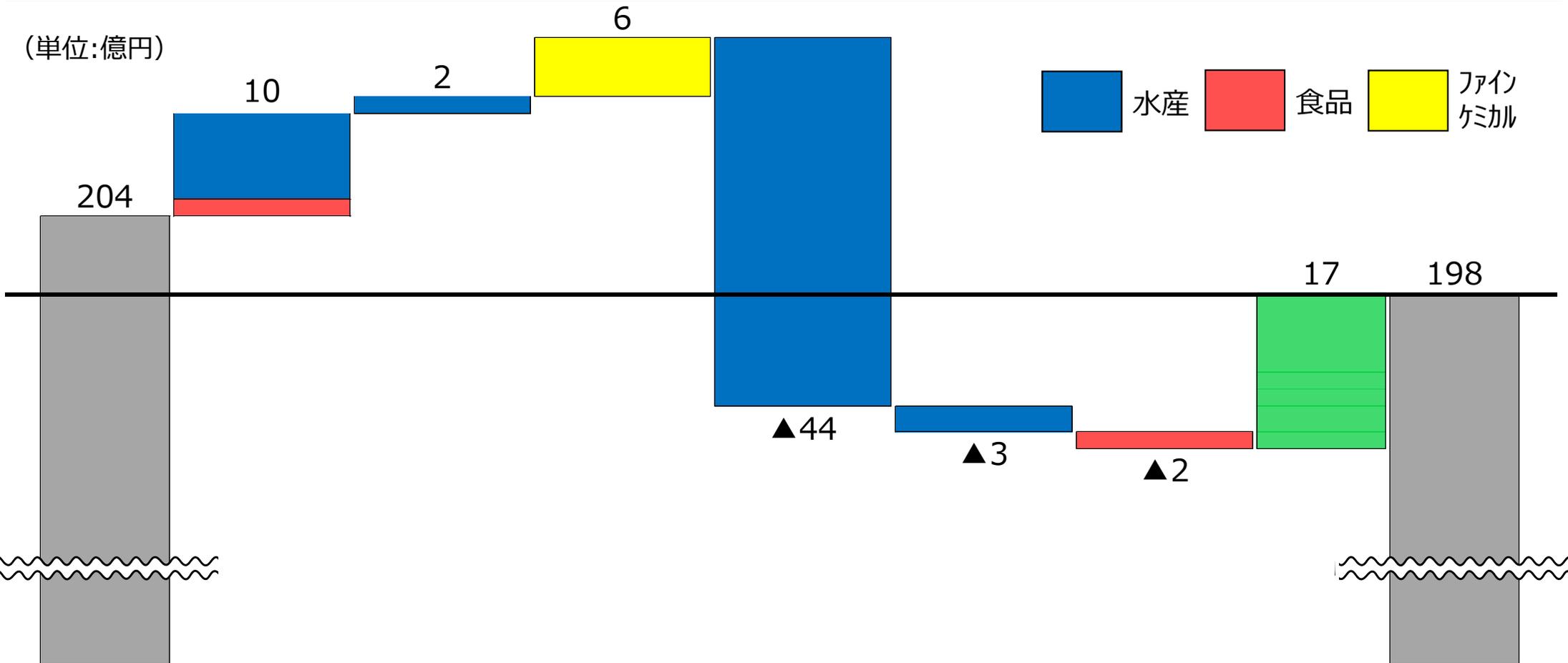
(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2018年3月期 第3四半期	対前年同期比増減		2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	5,432	5,120	311	106.1	7,065	76.9
水産事業	2,233	2,170	63	102.9	2,882	77.5
食品事業	2,616	2,462	154	106.3	3,382	77.4
ファインケミカル事業	195	189	6	103.4	265	74.0
物流事業	128	125	2	102.1	166	77.2
その他	258	172	85	149.5	370	69.9
営業利益	198	204	▲5	97.5	220	90.5
水産事業	97	110	▲13	88.0	98	99.6
食品事業	103	102	0	100.4	124	83.4
ファインケミカル事業	19	13	6	144.7	29	67.7
物流事業	16	16	▲0	99.3	19	87.2
その他	8	9	▲0	94.0	12	72.4
全社経費	▲46	▲49	2	95.2	▲62	75.7
経常利益	228	211	16	107.9	235	97.1
親会社株主に帰属する四半期純利益	152	163	▲11	93.3	160	95.5
EPS(1株当たり純利益)	49.06円	52.57円	-	-	51.42円	-

主な営業利益増減要因



◆北米・欧州事業に加えファインケミカル事業が堅調。南米の大幅減益や国内水産・食品事業の苦戦あるも、在庫に含まれる未実現利益の調整がプラスに働き、若干の減益に留まった。

(単位:億円)



2018年3月期 第3四半期	海外		国内	海外	国内		水産:連結調整 たな卸資産の 未実現利益等	2019年3月期 第3四半期
	<北米>	<欧州>	<ファインケミカル>	<南米>	<水産>	<食品>		
	水産: すりみ・助子の販売単価上昇、労務コスト削減 食品: 原価率改善で増益	水産: 販売エリア拡大による増収	機能性原料の海外販売増や広告宣伝費の削減で増益	養殖: 前年の稚魚斃死による販売数量の大幅減少に加え、販売価格が下落	個別: 鮭・鱒・えび・まぐろなどが苦戦 グループ: 漁撈は増益、国内養殖はコスト増で減益	個別: 原料価格上昇などで減益 グループ: コンビニ増店効果もあり、チルド事業が好調		

◆ 売掛債権・在庫が増加。

() 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産 2,712 (+181)

現金及び預金 140 (▲86)

受取手形及び売掛金 1,067 (+220)

棚卸資産 1,298 (+75)

固定資産 2,333 (+42)

有形固定資産 1,347 (+20)

無形固定資産 108 (▲7)

投資その他の資産 877 (+29)

総資産 5,046 (+224)

流動負債 2,240 (+112)

支払手形及び買掛金 523 (+76)

短期借入金 1,275 (+124)

その他 109 (▲58)

固定負債 1,110 (▲12)

長期借入金 870 (▲17)

純資産 1,695 (+124)

自己資本 1,499 (+121)

自己資本比率

'18/3 28.6% ⇒ '18/12 29.7%

◆ 運転資本の増加に伴い、営業CFが減少。

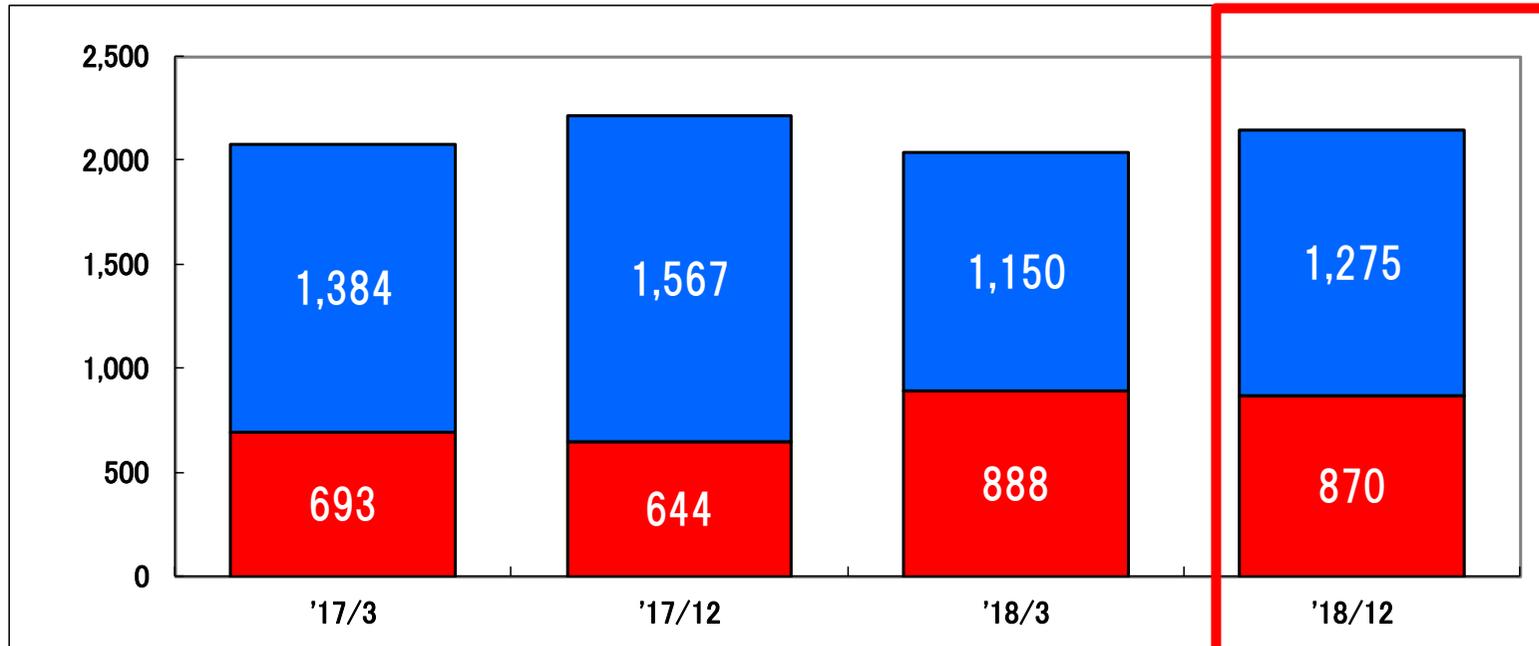
(単位：億円)

	2019年3月期 第3四半期実績	2018年3月期 第3四半期実績	増減
・税金等調整前四半期純利益	230	248	▲ 18
・減価償却費 (のれん償却含む)	135	131	4
・運転資本	▲ 213	▲ 149	▲ 63
・法人税等の支払額	▲ 70	▲ 51	▲ 18
・その他	▲ 62	▲ 71	9
営業活動によるCF	19	106	▲ 87
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 154	▲ 206	51
・その他	41	42	▲ 0
投資活動によるCF	▲ 113	▲ 163	50
・短期借入金の増減額	149	385	▲ 236
・長期借入金の増減額	▲ 39	▲ 254	214
・その他	▲ 34	▲ 39	4
財務活動によるCF	74	92	▲ 17
現金及び現金同等物の期末残高	223	290	

◆前年同期比70億円弱借入金を圧縮。

(単位：億円)

■ 短期借入金
■ 長期借入金



前年同期
比増減

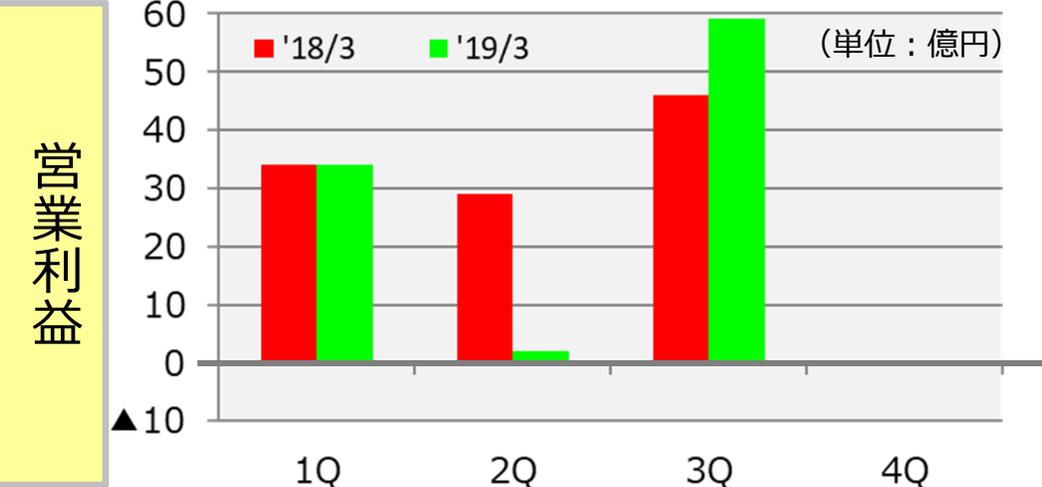
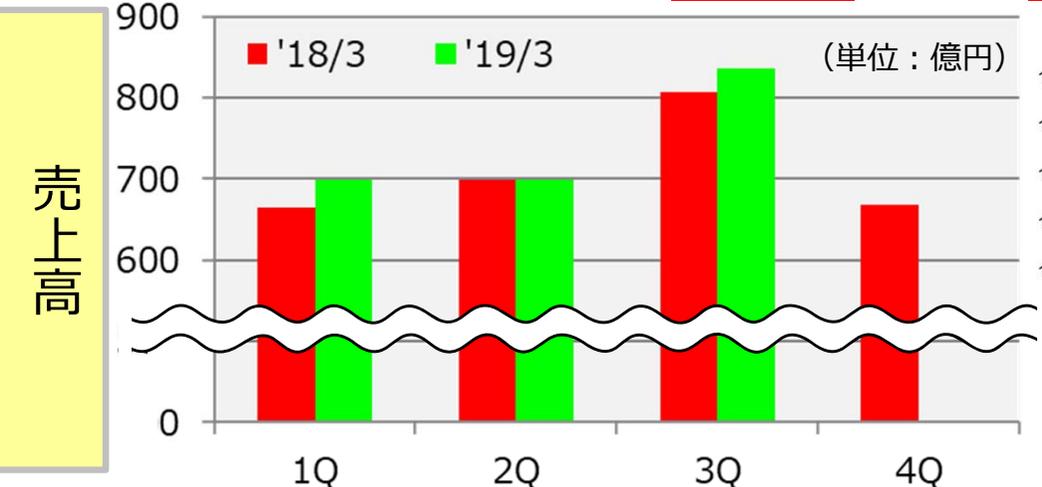
▲292

+226

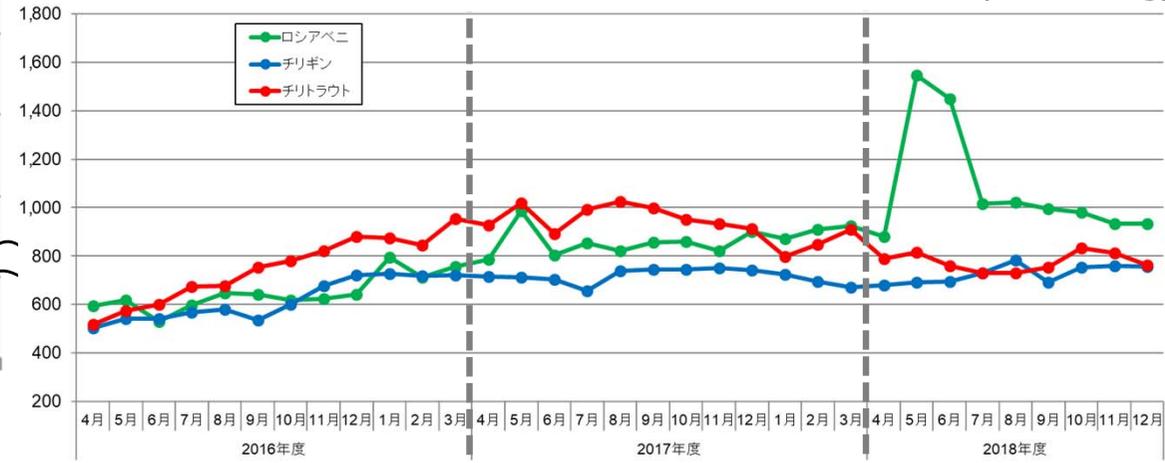
借入金合計	2,077	2,211	2,038	2,145	▲66
短期借入金	1,384	1,567	1,150	1,275	▲292
長期借入金	693	644	888	870	+226
純金利負担	10.4	8.6	8.8	7.6	
対営業利益純金利負担率	5%	4%	4%	4%	
支払利息	21.7	15.3	20.0	13.3	
受取利息	2.3	2.6	3.5	1.4	
受取配当金	8.8	4.0	7.6	4.2	

◆北米・欧州事業や漁撈事業は増益も、南米鮭鱒養殖事業の影響に加え、国内養殖事業のコスト増もあり減益。

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2018年3月期 第3四半期	対前年同期比増減		2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	2,233	2,170	63	102.9	2,882	77.5
営業利益	97	110	▲13	88.0	98	99.6



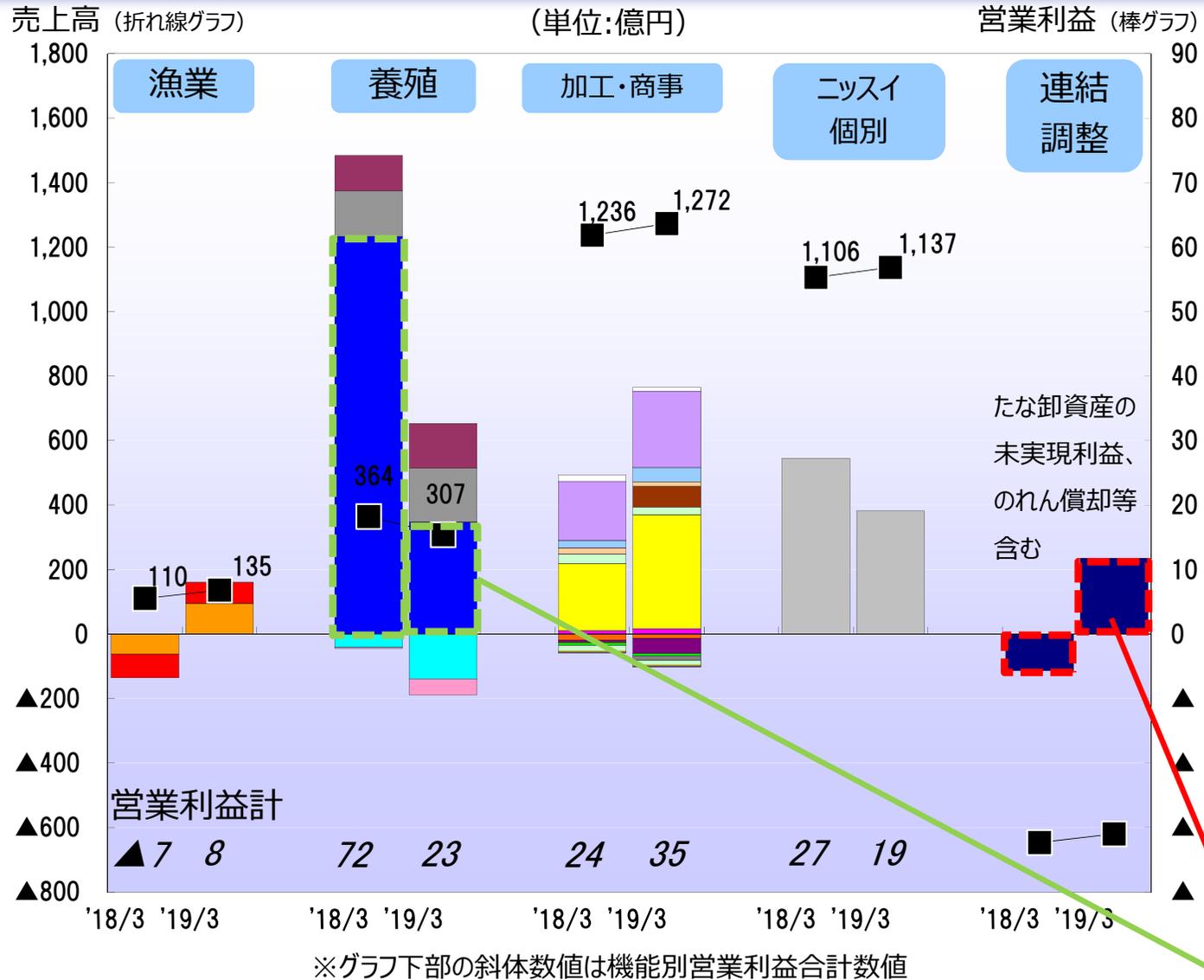
＜国内水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)＞ (単位：円/kg)



白身魚を中心とした
水産加工会社

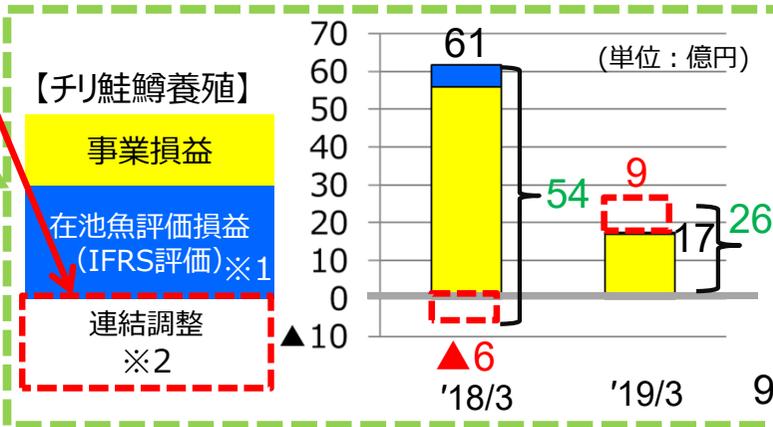
通年で安定した美味しさを提供する「黒瀬ぶり」

水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

- 【漁業】(増収増益)
 - ・日本：かつおやさば等の漁獲好調
 - ・南米：漁獲増・販売価格上昇
- 【養殖】(減収減益)
 - ・国内養殖事業
 - ぶり：販売尾数増、販売価格上昇
 - まぐろ：販売価格低迷に加え赤潮被害等による影響
 - 鮭鱒(銀鮭)：生産コスト増
 - ・南米鮭鱒(トラウト) 養殖事業
 - 販売数量大幅減・販売価格下落
- 【加工・商事】(増収増益)
 - ・米国加工事業
 - 販売単価上昇やコスト削減で増益
 - ・ニッスイ個別
 - すりみ等好調、鮭鱒・えび等で苦戦

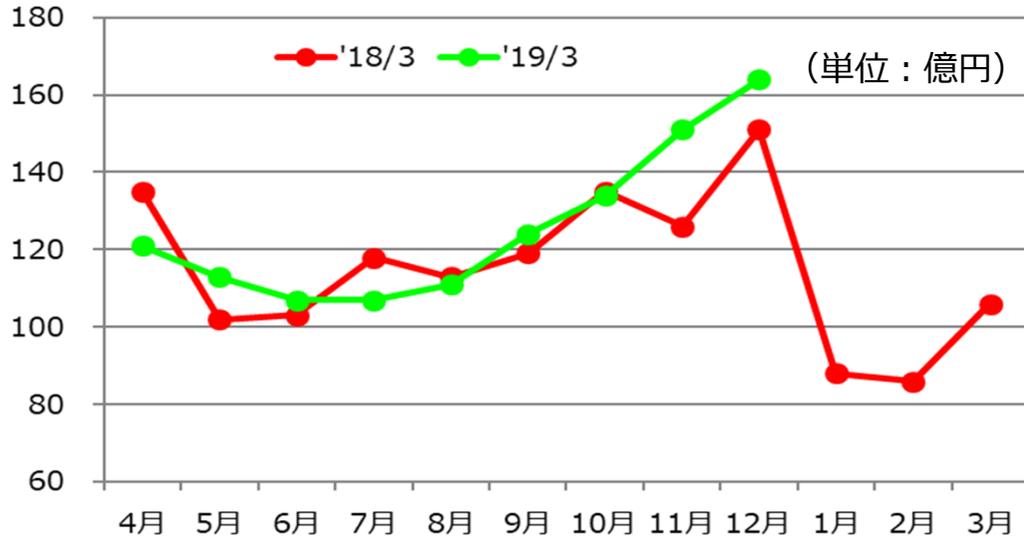


※1 国際財務報告基準(IFRS)に基づき四半期決算毎に出荷・販売前の養殖魚(在池魚)の時価評価を行い、営業損益に計上しております。

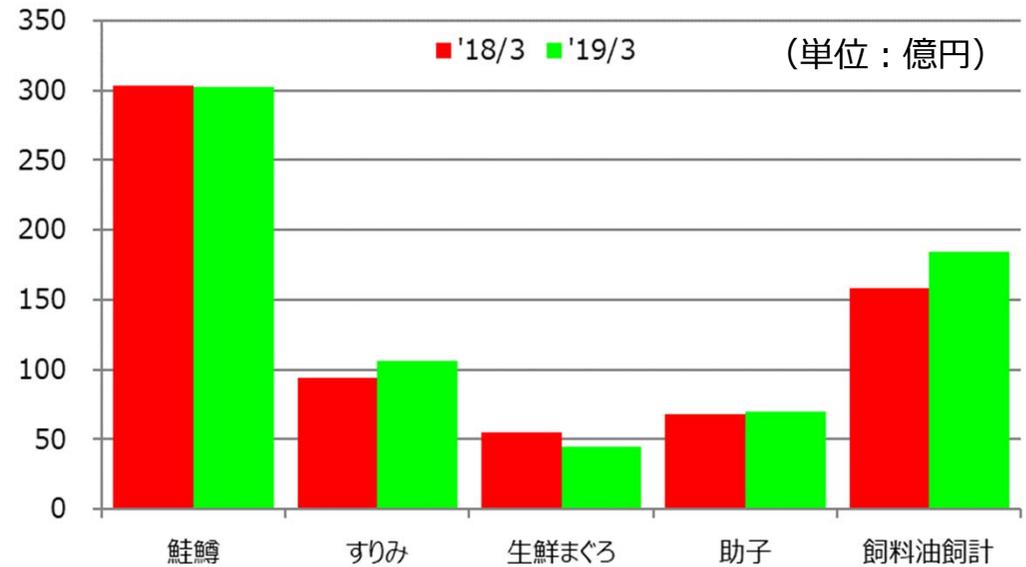
※2 南米鮭鱒養殖事業の在庫に含まれる未実現利益の調整。

◆一部の主要魚種は通期で減益なもの、直近では回復傾向。

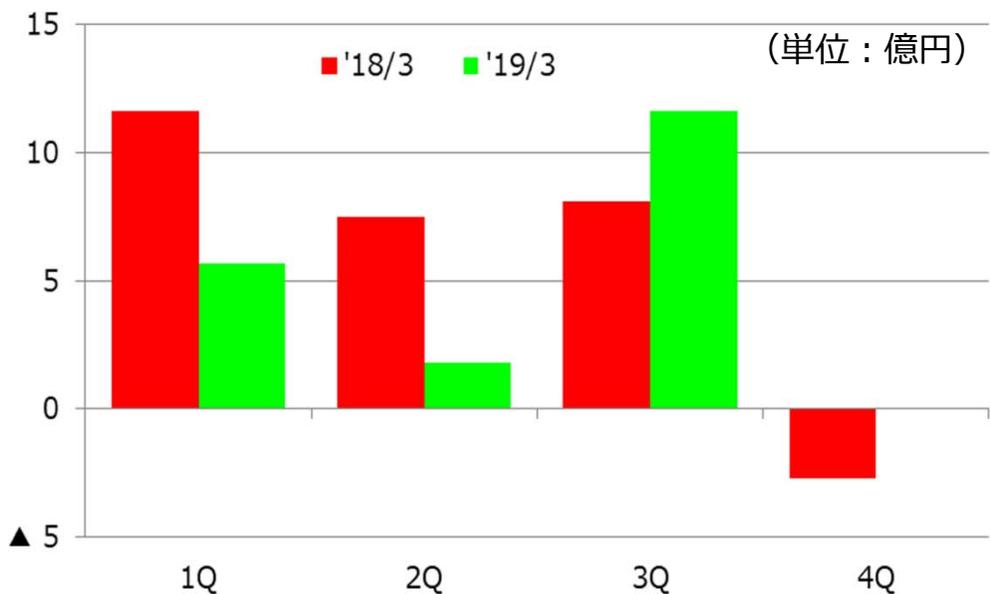
<売上高(月別)>



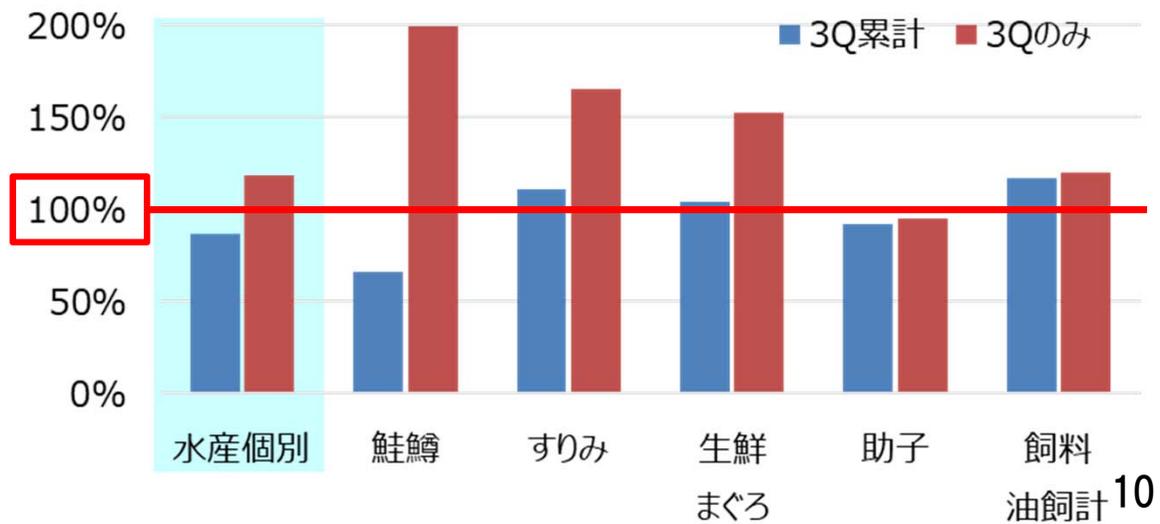
<主要魚種別 売上高(前年同期比)>



<営業利益(四半期別)>



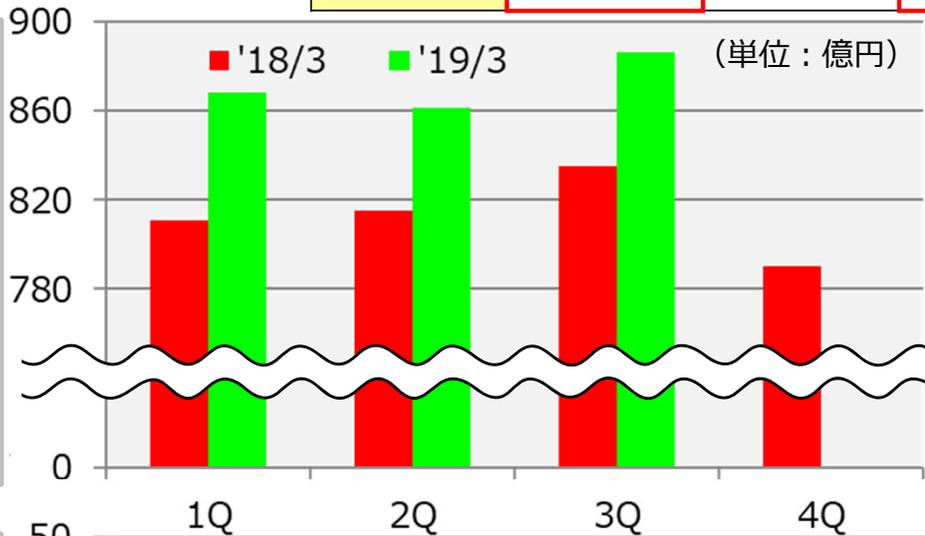
<主要魚種 利益進捗率(前年同期比)>



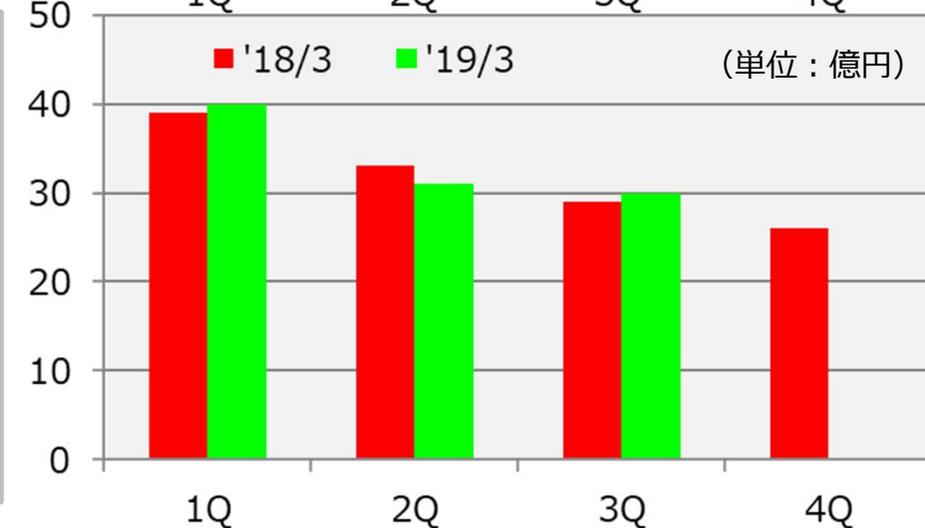
◆北米事業やチルド事業が増益。原料価格や物流費などの影響が出始めてきている。

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2018年3月期 第3四半期	対前年同期比増減		2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	2,616	2,462	154	106.3	3,382	77.4
営業利益	103	102	0	100.4	124	83.4

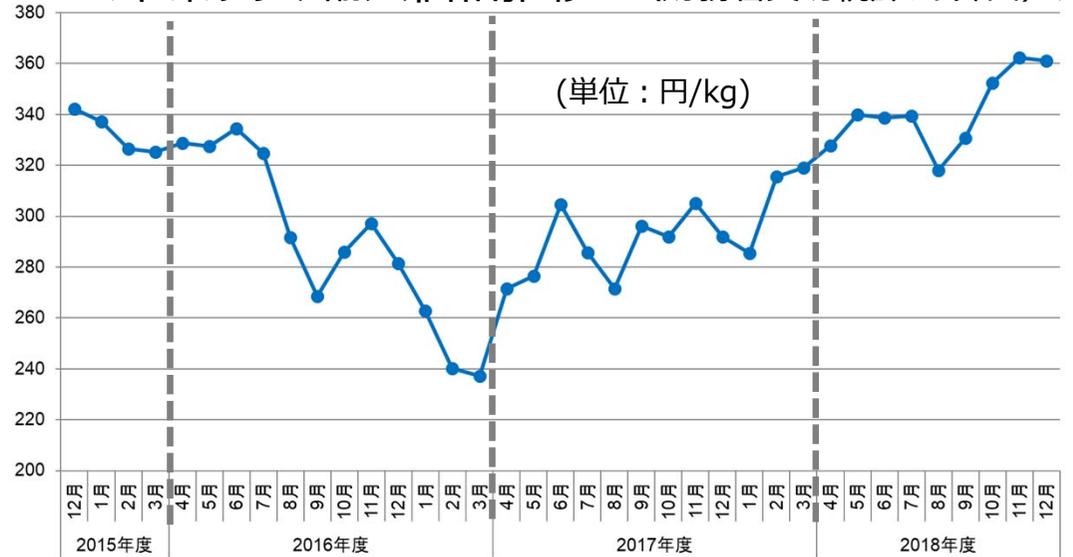
売上高



営業利益



＜冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)＞



＜チルド工場新設(群馬県伊勢崎市)＞

2019年1月より稼働



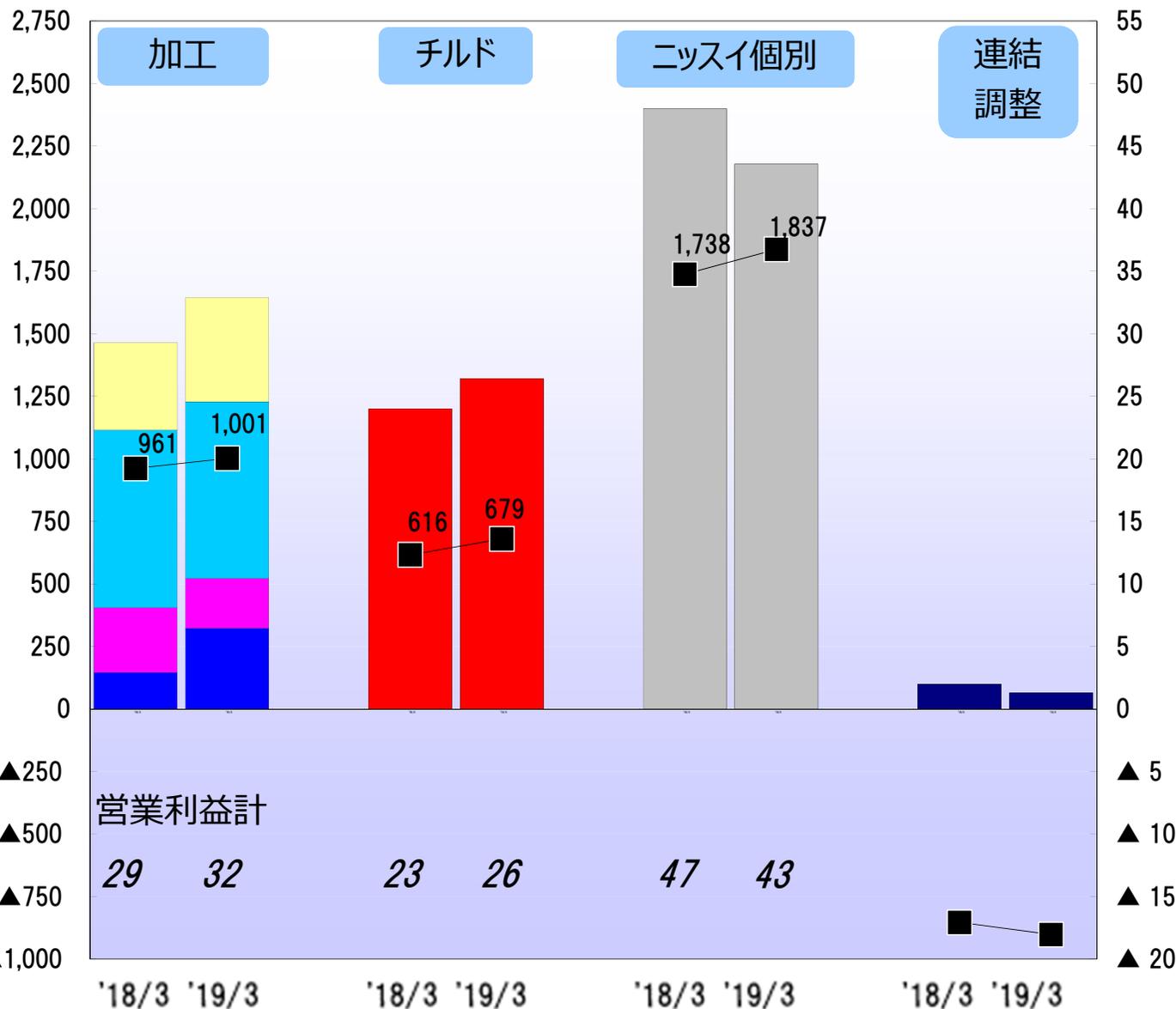
食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



売上高 (折れ線グラフ)

(単位:億円)

営業利益 (棒グラフ)



主な増減要因

【加工】(増収減益)

- ・北米
家庭用冷凍食品はコスト削減で増益
- ・ヨーロッパ
生産体制の整備が進み、チルド商品を中心に増収となるも、原料価格上昇により利益は前年並み
- ・日本
冷凍食品は米飯や野菜を中心に伸長したが、すりみなどの原料価格の上昇などにより減益

【チルド】(増収増益)

- ・コンビニエンスストア再編による供給店舗増加に加え、おにぎり・麺・弁当類の販売が伸長

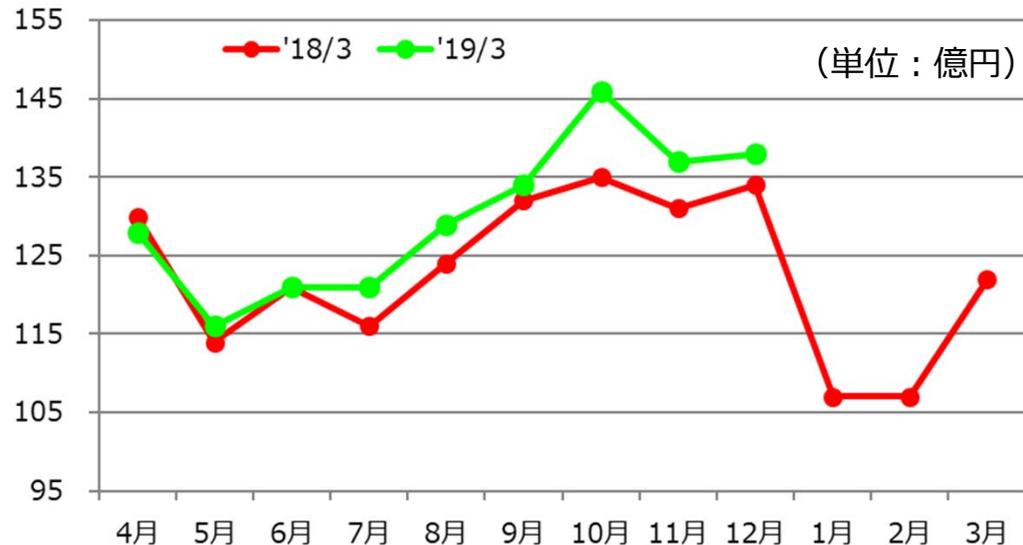
※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

食品事業 ニッスイ個別(前年同期比)

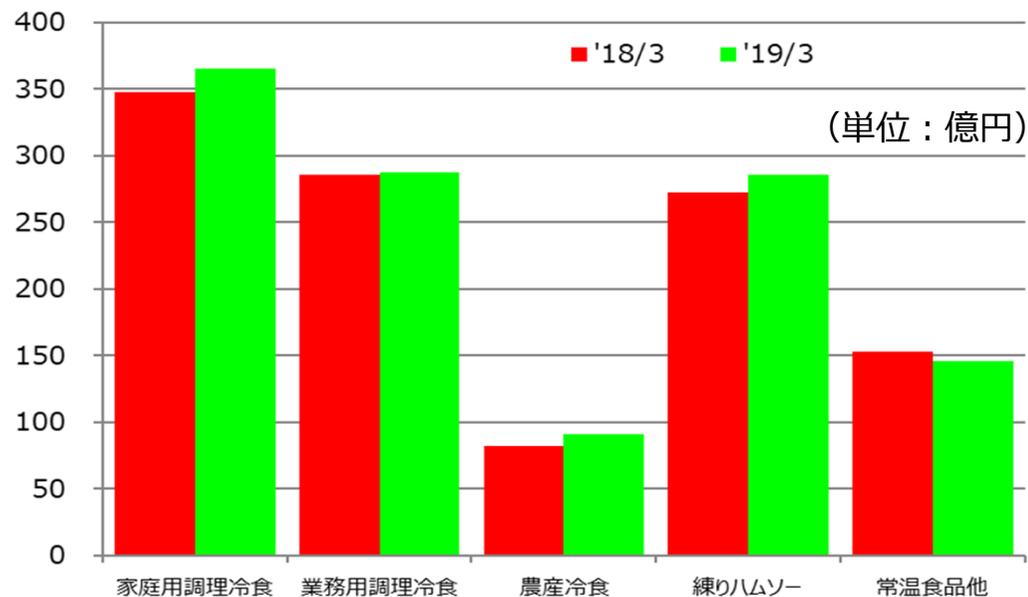


◆各カテゴリで増収となるも、すりみや米などの原料価格の上昇などの影響あり。

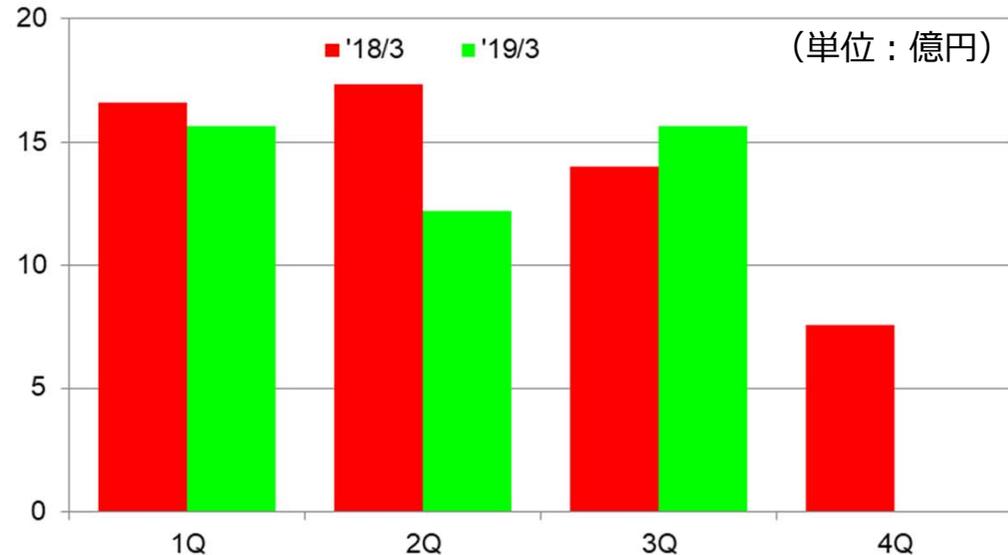
<売上高 (月別) >



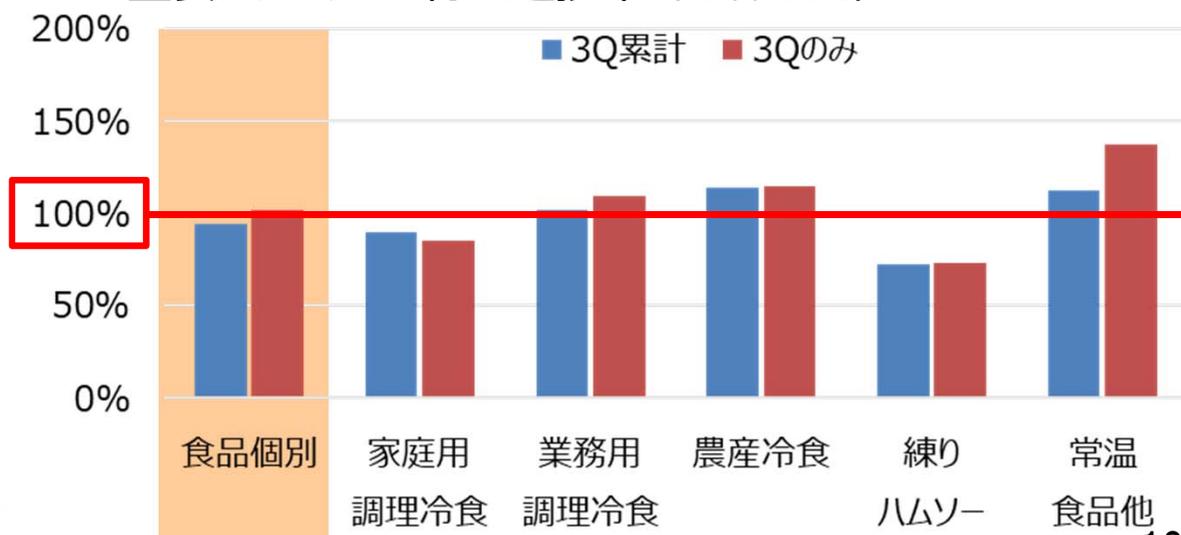
<カテゴリ別 売上高 (前年同期比) >



<営業利益 (四半期別) >

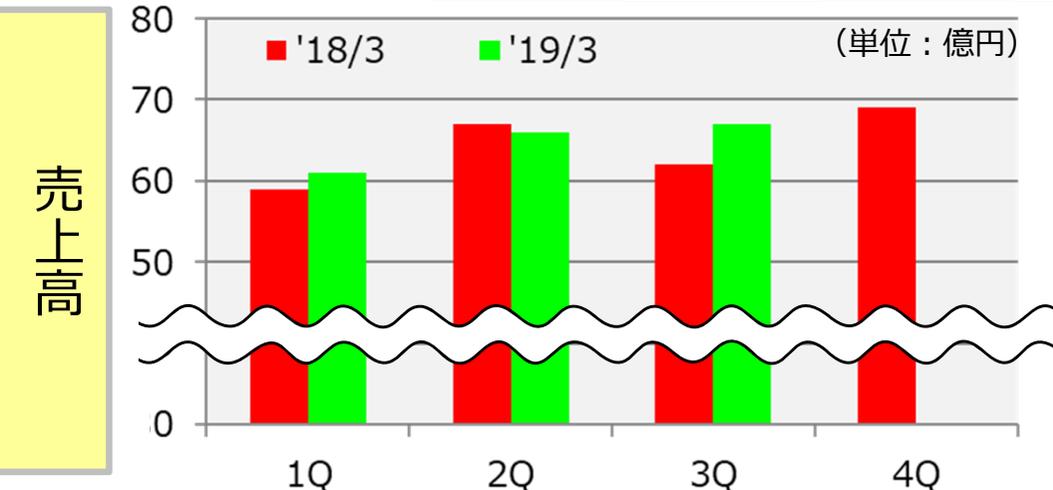


<主要カテゴリ 利益進捗率 (前年同期比) >



◆国内外の機能性原料販売の拡大に加え、広告宣伝費の削減により増益。

(単位：億円)	2019年3月期	2018年3月期	対前年同期比増減		2019年3月期	進捗率
	第3四半期	第3四半期	(億円)	(%)		
売上高	195	189	6	103.4	265	74.0
営業利益	19	13	6	144.7	29	67.7



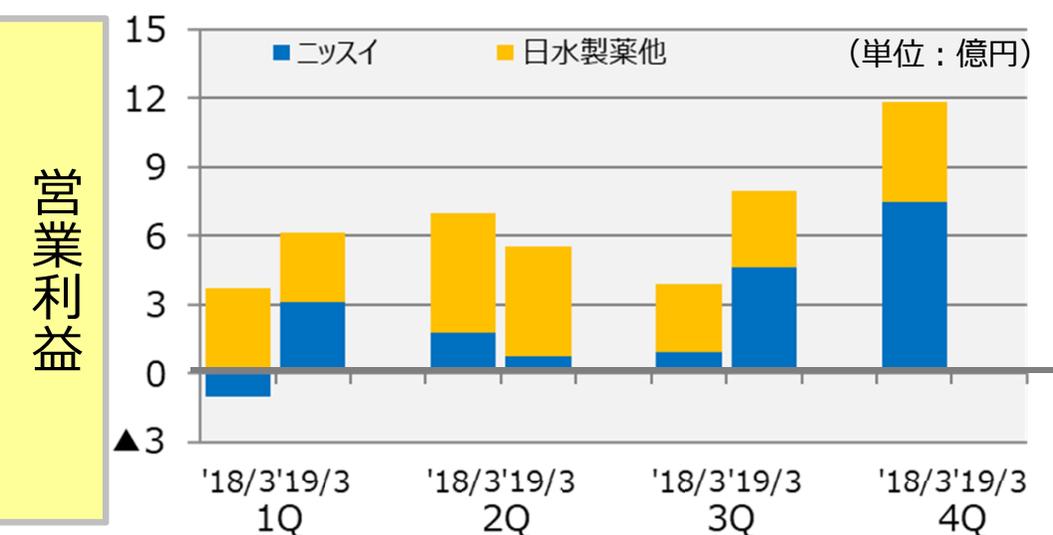
主な増減要因

【ニッスイ個別】

- ・機能性原料：国内外で販売増加
- ・機能性食品：通販事業の広告宣伝費の削減

【グループ】

- ・海外販売好調も、事業の見直し（化粧品事業売却）の影響などにより減益



NEW!!

記憶力の維持をサポートする
DHA飲料



RENEWAL!!

スポーツをする方をEPAでサポート



<EPA・DHA商品展開>

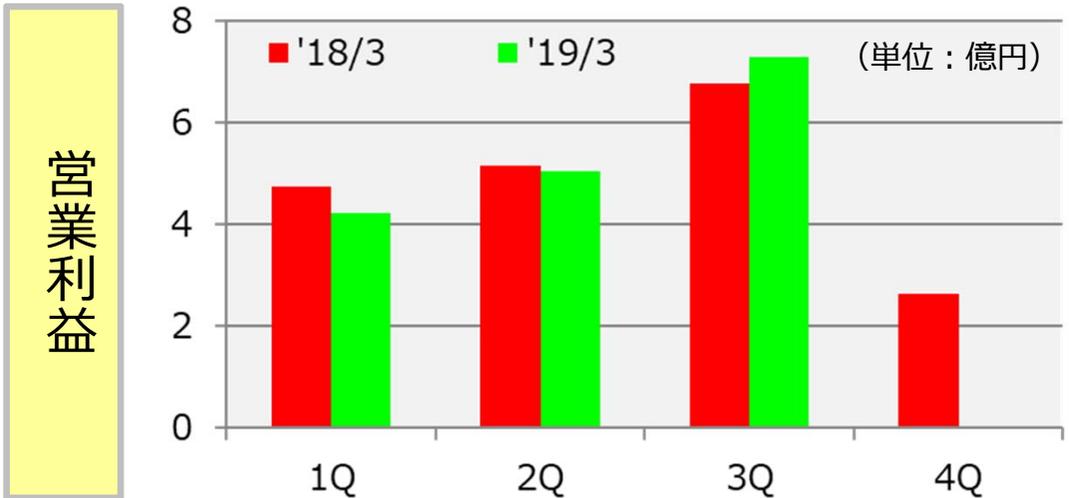
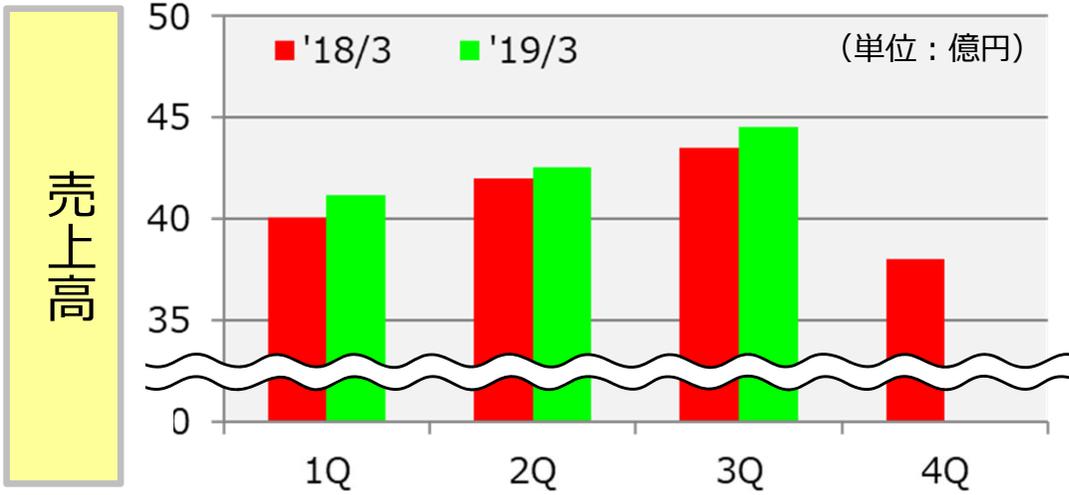
既存の主な商品群



◆平和島冷蔵庫の営業再開もあり増収。

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2018年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	128	125	2	102.1
営業利益	16	16	▲0	99.3

2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
166	77.2
19	87.2



主な増減要因

- 平和島冷蔵庫の営業再開もあり増収
- 労務費や電力料などのコスト増加

＜日水物流・平和島物流センター＞



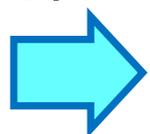
◆年間計画に対し順調に推移しているが、今後は原料価格上昇など厳しい事業環境が予想される。

(単位：億円)	2019年3月期 11/5発表	2018年3月期 実績	対前期比増減		主な増減要因
			(億円)	(%)	
売上高	7,065	6,772	292	104.3	
営業利益	220	232	▲12	94.7	
経常利益	235	245	▲10	95.6	
(特別損益)	(▲8)	(15)	(▲23)		投資有価証券売却益 (▲43)
当期純利益	160	172	▲12	92.8	

水産

南米養殖事業：稚魚斃死の影響は昨年7月以降正常化
漁場の拡大による生産数量増

国内養殖事業：生産性改善や差別化を進める



「進化と拡大」

更なる種苗管理

ぶりの稚魚



銀鮭



採卵の多回数化



安定した飼育
期間の確保

育種による性能向上
(2018年11月 採卵センター竣工)



養殖コストの
削減

産地加工品比率向上

まぐろ



利便性と美味しさアップ
相場に左右されにくい
収益構造へ

新規取組

生鮮流通
可能な高鮮
度国産バナ
メイえび



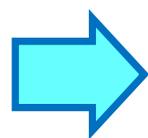
すま



刺身や寿司に最適
早期成長で脂のりの良い状態に 17

水産

ライフスタイルの変化に対応し、加工度を高めた水産品を拡大



より食べやすい商品・原料相場や市況に左右されにくい商品の展開。

魚の美味しさを引き出した新商品



自然解凍で食べられるさわら西京焼き

魚介と野菜を合わせた新商品



フライパンで調理でき野菜も摂れる味付けえび商材



トラウトサーモンをレモンソースに漬けたマリネ



食品

原料価格の上昇による影響などを生産・販売両面でカバー

⇒ 設備投資（自動化・増産など）による生産性向上
商品の価格改定による収益性の改善

農産冷蔵



枝豆生産新工場の本
格稼働による生産強化



日本クッカー株式会社
2019年1月から稼働

需要拡大に対応した生
産能力増強と、省人化
による生産効率化



株式会社 八子カン

混ぜご飯タイプの製品も
生産可能にし、生産商
品群の幅を広げ、消費
者需要に対応



新工場建設で、白身魚
に加え、えび加工品など
商品カテゴリーを拡大

世界各国での引き合い増加による原材料価格の高騰や、人件費の増加などのコスト上昇もあり、一部商品の価格改定を実施予定

＜対象商品＞

家庭用食品	ちくわ・揚げ物などの練り製品、フィッシュソーセージ
業務用食品	いか唐揚げ・白身魚フライ・コロッケなど

＜実施時期＞

2019年3月1日出荷分より随時



食品

新商品コンセプト:

尖りと差別化で、食シーンを豊かにする食卓応援団



「多様なライフスタイル」「健康訴求」「減少する魚食」
など、簡単・便利な惣菜ニーズに対応した商品を展開

ライフスタイルの変化

調理の手間を軽減できる商品を提案

健康訴求

女性をターゲットにした商品提案

手軽におさかな

手軽で美味しい水産品を提供



レンジ加熱で本格中華が味わえるキット



食物繊維の多いもち麦入りおにぎり



国産いわし使用のオイル漬け缶詰



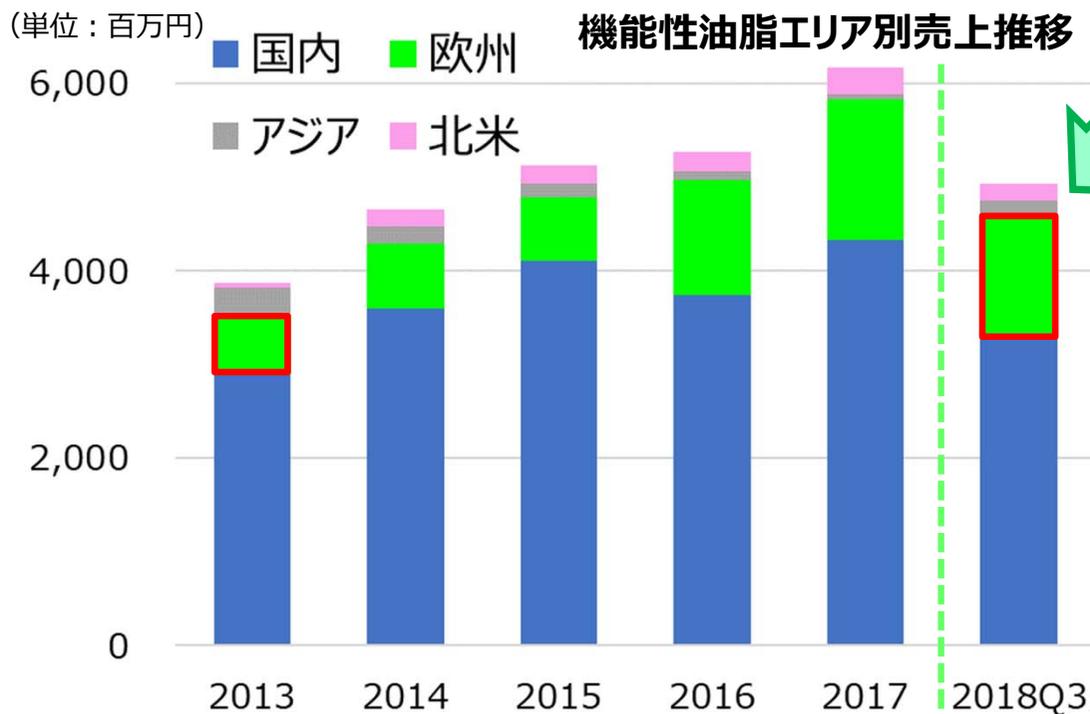
調理例: いわしのアヒージョ

ファインケミカル

海外: REDUCE-ITの結果により循環器系疾患に高純度EPAの有効性が確認されたことで、EPA需要が高まる
 欧州での粉乳向けDHA義務化への対応

国内: 健康需要の更なる高まりに対応

2018年の欧州の販売規模は5年前と比較して**約2倍に拡大**



水源や海を守るための森林保全活動スタート (鳥取県大山隠岐国立公園内)



CSR
10月



取組の背景・目的

ニッセイグループは「豊かな海を守り、持続可能な水産資源の利用と調達を推進する」ことを掲げている。この目標に向けた活動の一環。



養殖すまの出荷開始

すま…脂のりが良く、まぐろの大トロや中トロに似た味わいが楽しめる



水産
11月



水産

「船上山採卵センター」竣工 (銀鮭の種苗生産)



CSR活動の取組を掲載したサステナビリティレポート2018を発行



CSR 12月



1月 食品

春夏新商品発表



鯖や監修のさばのみりん漬け



業務用大粒肉シューマイ



直近の主な動き(海外)



本社工場への生産性向上投資を開始



生産工程の自動化と多品種少量生産への対応 (イメージ図)



食品



フランスの冷凍・チルド会社が31%の株式を保有するえび加工会社の新工場稼働



食品



海外グループ会社でも、様々なCSR活動を展開



(米国)



準絶滅危惧種の渡り鳥「フェコドリ」の保護



(タイ)



NISSUI (THAILAND) Co., Ltd.



天然素材のダムづくり

清掃活動

【参考】 連結損益計算書(前年同期比)



◆前年同期比で増収・減益。

	2019年3月期 第3四半期実績	2018年3月期 第3四半期実績	増減	主な増減要因
売上高	5,432	5,120	311	
売上総利益	1,094	1,089	4	
販売費・一般管理費	895	885	9	
営業利益	198	204	▲ 5	
営業外収益	43	23	20	持分法による投資利益(+15)
営業外費用	14	15	▲ 1	
経常利益	228	211	16	
特別利益	5	50	▲ 45	投資有価証券売却益 (▲41)
特別損失	3	13	▲ 10	災害による損失 (▲6)
税金等調整前四半期純利益	230	248	▲ 18	
法人税等	46	74	▲ 28	
法人税等調整額	24	3	20	
四半期純利益	159	170	▲ 11	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	6	6	0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	152	163	▲ 11	

※第1四半期連結会計期間より、在外子会社等の収益及び費用については、各社の決算日の直物為替相場により円貨に換算する方法から、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更したため、遡及適用後の数値で前四半期連結累計期間との比較を行っている。

【参考】為替換算による影響額(売上高)



◆米ドルで大きな影響はあるも、通貨全体としては微増収

主要在外会社の 為替換算レート	2019年3月期 第3四半期		2018年3月期 第3四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	815	893	876	981	▲60	▲87	▲68	▲19
EUR(百万ユーロ)	193	252	172	215	21	37	26	10
DKK(百万クローネ)	2,385	418	2,174	366	211	51	35	15
その他通貨	—	179	—	145	—	33	31	2
計		1,744		1,708		35	25	10

【参考：為替レート】

	2019年3月期 第3四半期	2018年3月期 第3四半期	変動率
米ドル (USD)	109.63円	111.81円	▲2.0%
ユーロ (EUR)	130.62円	125.24円	4.3%
デンマーククローネ (DKK)	17.53円	16.84円	4.1%

【参考】セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



◆日本・欧州が伸長。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,890 (50)	339 (▲22)	146 (▲42)	58 (▲2)	418 (51)	2,853 (36)	▲620 (26)	2,233 (63)
	1,839	361	188	61	366	2,817	▲647	2,170
食品事業	2,783 (162)	405 (▲15)		55 (7)	315 (59)	3,560 (212)	▲943 (▲58)	2,616 (154)
	2,621	421		48	255	3,347	▲885	2,462
ファイン事業	213 (7)			3 (▲0)		217 (7)	▲21 (▲0)	195 (6)
	206			3		209	▲20	189
物流事業	242 (13)					242 (13)	▲114 (▲10)	128 (2)
	229					229	▲103	125
その他事業	322 (3)			1 (▲0)		323 (3)	▲64 (82)	258 (85)
	318			1		320	▲147	172
仮計	5,452 (236)	744 (▲38)	146 (▲42)	118 (4)	733 (111)	7,196 (272)		
	5,215	782	188	114	622	6,924		
連結調整	▲1,468 (0)	▲112 (▲0)	▲89 (37)	▲82 (▲1)	▲11 (2)		▲1,763 (39)	
	▲1,468	▲112	▲126	▲81	▲13		▲1,803	
連結計	3,984 (237)	632 (▲38)	57 (▲4)	35 (3)	722 (113)			5,432 (311) ※1
	3,746	670	61	32	608			5,120

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※1)前年同期実績比増収+311億円の主な内訳:

+236億円 (日本の増収)

+35億円 (海外グループ会社における増収。内訳はP.26を参照)

+39億円 (連結調整)

【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



◆南米エリアで減益。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	34 (▲3)	20 (8)	19 (▲38)	0 (▲0)	11 (2)		85 (▲30)	11 (17)	97 (▲13)	4.4 (▲0.7)
	38	11	57	0	8		116	▲5	110	5.1
食品事業	71 (▲2)	10 (2)		6 (2)	13 (▲0)		102 (1)	1 (▲1)	103 (0)	4.0 (▲0.2)
	73	8		4	13		100	2	102	4.2
ファイン事業	18 (6)			0 (▲0)			19 (6)	0 (▲0)	19 (6)	10.0 (2.9)
	12			0			13	0	13	7.2
物流事業	16 (0)						16 (0)	0 (▲0)	16 (▲0)	12.9 (▲0.4)
	16						16	0	16	13.3
その他事業	8 (▲4)			0 (▲0)			8 (▲4)	▲0 (4)	8 (▲0)	3.4 (▲2.0)
	13			0			13	▲4	9	5.3
全社経費						▲47 (2)	▲47 (2)	0 (▲0)	▲46 (2)	
						▲49	▲49	0	▲49	
仮計	150 (▲4)	30 (10)	19 (▲38)	7 (1)	24 (2)	▲47 (2)	186 (▲25)			
	154	19	57	6	22	▲49	211			
連結調整	2 (3)	2 (1)	8 (14)	▲0 (▲1)	▲0 (1)	▲0 (▲0)		12 (20)		
	▲1	0	▲5	0	▲1	0		▲7		
連結計	152 (▲0)	33 (12)	28 (▲23)	7 (0)	24 (3)	▲47 (2)			198 (▲5)	3.7 (▲0.3)
	153	20	51	7	20	▲49			204	4.0

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

※第1四半期連結会計期間より、セグメント別の経営成績をより適切に把握するため、セグメントに帰属する販売費及び一般管理費の配賦基準を見直しており、遡及適用後の数値で前四半期連結累計期間との比較を行っている。

見通しに関する注意事項



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2019年2月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7057

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

